

IBM Emptoris Spend Analysis on Cloud

ご利用条件 (以下、「ToU」といいます。) は、本「IBM ご利用条件 – SaaS 特定オファリング条件」 (以下、「SaaS 特定オファリング条件」といいます。)、および以下の Web サイトでご覧いただける「IBM ご利用条件 – 一般条件」 (以下、「一般条件」といいます。) という表題の文書で構成されています (URL:<http://www.ibm.com/software/sla/sladb.nsf/sla/tou-gen-terms/>)。

「SaaS 特定オファリング条件」と「一般条件」の規定に矛盾がある場合は、「SaaS 特定オファリング条件」が優先して適用されるものとします。「IBM SaaS」の注文、そのアクセスまたは利用により、お客様は「ToU」に同意したものとみなされます。

「ToU」には、該当する「IBM パスポート・アドバンテージのご契約条件」、「IBM パスポート・アドバンテージ・エクスプレスのご契約条件」、または「IBM SaaS 特定オファリングのご契約条件」 (以下、「本契約」といいます。) が適用され、これらと「ToU」と合わせて完全な合意として成立します。

1. IBM SaaS

以下の「IBM SaaS」オファリングは、これらの「SaaS 特定オファリング条件」の対象です。

- IBM Emptoris Spend Analysis Premium on Cloud
- IBM Emptoris Spend Analysis on Cloud
- IBM Emptoris Spend Analysis on Cloud Read Only
- IBM Emptoris Spend Analysis on Cloud for Non-Production Environment
- IBM Emptoris Spend Analysis on Cloud Advanced Add-on

2. 課金単位

「IBM SaaS」は、「取引文書」で規定された以下の課金単位のいずれかに従って販売されます。

- 「許可ユーザー」** は、「IBM SaaS」を取得する際の課金単位です。「許可ユーザー」とは、「IBM SaaS」へのアクセスを認められた特定の人を意味します。お客様は、「証書 (PoE)」または「取引文書」に定める課金期間中に、直接または間接のいかなる手段であっても (例えば、多重化プログラム、デバイスまたはアプリケーション・サーバーを経由して)、何らかの方法により「IBM SaaS」オファリングにアクセスする「許可ユーザー」ごとに、個別に専用の使用許諾を取得しなければならないものとします。ある「許可ユーザー」のための使用許諾は、その「許可ユーザー」に固有のものであり、共有することはできず、かつ、「許可ユーザー」の使用許諾を別の人に永続的に移転する場合を除き、再度割り当てることはできません。
- 「インスタンス」** は、「IBM SaaS」を取得する際の課金単位です。「インスタンス」とは、特定の構成の「IBM SaaS」へのアクセスを意味します。お客様の「証書 (PoE)」または「取引文書」に定める課金期間中にアクセスおよび利用することが可能な「IBM SaaS」の「インスタンス」ごとに十分な使用許諾を取得しなければならないものとします。

3. 料金および課金

「IBM SaaS」に対する料金は、「取引文書」に記載されます。

3.1 1か月に満たない期間の料金

「取引文書」に記載された1か月に満たない期間の料金は、按分ベースで算定される場合があります。

4. 「IBM SaaS」の「サブスクリプション期間」の更新オプション

「IBM SaaS」の期間は、「PoE」に文書化されるとおりに、「IBM SaaS」へのお客様のアクセスについて、IBM がお客様に通知した日に開始します。「PoE」には、「IBM SaaS」が自動的に更新されるのか、継続使用ベースで続行されるのか、期間満了時に終了するのかが記載されます。

自動更新の場合には、お客様が期間満了日の少なくとも 90 日前までに書面により更新しないことを通知する場合を除き、「IBM SaaS」は、「PoE」に定める期間につき自動更新されます。

継続使用の場合は、「IBM SaaS」は、お客様が 90 日前までに書面により終了を通知するまで、月単位で継続利用できます。「IBM SaaS」は、かかる 90 日の期間後の暦月末まで引き続き利用できます。

5. テクニカル・サポート

IBM が「IBM SaaS」へのアクセスが利用可能になった旨をお客様に通知後、「IBM SaaS」の「テクニカル・サポート」が電話、電子メール、オンライン・フォーラム、およびオンライン問題報告システムを介して提供されます。IBM がかかる「テクニカル・サポート」の一環として提供する拡張、更新、およびその他資料は、「IBM SaaS」の一部とみなされ、この「ToU」が適用されるものとします。「テクニカル・サポート」は「IBM SaaS」に含まれ、個別のオフアリングとして提供されるものではありません。

利用可能時間、電子メール・アドレス、オンライン問題報告システム、およびその他の「テクニカル・サポート」に関する伝達手段や伝達プロセスに関する詳しい情報は、IBM Software as a Service (SaaS) Support Handbook に記載されています。

「IBM SaaS」のサポート・チケットの追跡には、以下の重要度が使用されます。

重要度	重要度の定義
1	重大な事業影響/サービス・ダウンの問題には、以下が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> ● 実稼働環境において、当該製品を使用することができないか、または当該製品を使用した作業を合理的に継続できない。 ● 製品の安全性が侵害されている。 ● データの破損が発生する。 ● サプライヤーおよび購入者は (UI およびインポートを介して) 応札できない。 ● すべてのユーザーが、契約を作成すること、契約を読み込むこと、契約を承認すること、契約を締結することができない。
2	著しい事業影響問題には以下が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> ● 不可欠な製品コンポーネントが適切に作動しない。 ● 行動により、生産性に著しい悪影響がもたらされた。 ● ユーザーが、イベントへの勧誘を受信できない。 ● 契約承認ワークフローおよびルールが正常に機能しない。 ● 注文がベンダーに支障なく送信されない。
3	軽度の事業影響問題には以下が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> ● 製品コンポーネントが適切に作動しないが、代替ソリューションは利用可能である。 ● 不可欠ではない機能が利用できず、代替ソリューションもない。 ● イベントのアイテムに文書を添付できない。 ● 通知テンプレートのフォーマットが正常に作動しない。 ● 不可欠ではないソフトウェア機能により予期しない結果がもたらされる。
4	最小限の事業影響問題には以下が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> ● 製品情報の要求。 ● 製品文書の明確化。 ● イベントのエクスポート方法。 ● レポート・ジョブのスケジュール設定方法。

6. 「IBM SaaS」オフアリングの追加条件

6.1 第三者の Web サイトおよびサービス

お客様または「IBM SaaS」ユーザーが、「IBM SaaS」オフアリングにリンクされた、または「IBM SaaS」オフアリングからアクセス可能な、第三者の Web サイトまたはその他のサービスに「コンテンツ」を送信する場合、お客様および「IBM SaaS」ユーザーは「コンテンツ」の当該送信を可能にするすべての同意を IBM に提供します。ただし、かかるやりとりは、第三者の Web サイトまたはサービスと、お客様の間でのみ行われるものとします。IBM は、かかる第三者のサイトまたはサービスに対し、いかなる保証または表明もするものではありません。また、これらに対するいかなる責任も負いません。

6.2 セーフハーバー原則の遵守

IBM は、EU (欧州連合) からの情報の収集、使用および保管に関して、米国商務省が規定する「米国 - EU 間のセーフハーバー・フレームワーク」に従うものとします。「セーフハーバー」の詳細および IBM の認証宣言は、<http://www.export.gov/safeharbor/> でご覧いただけます。

6.3 データ

6.3.1 収集

お客様は、IBM が「IBM SaaS」の通常の運用およびサポートの一環として、トラッキングおよびその他の技術により、「IBM SaaS」の利用に関連してお客様 (お客様の従業員および従契約者) から個人情報を収集することがあることを認識し、これに同意するものとします。IBM によるこのような情報収集は、ユーザー・エクスペリエンスの向上またはお客様との対話の調整を目的とし、「IBM SaaS」の有効性について使用統計および情報を収集するために行うものです。お客様は、IBM、その他の IBM グループ会社およびその従契約者が、営業活動を行う地域において、適用法に従い、IBM、その他の IBM グループ会社およびそれぞれの従契約者の範囲内で、収集した個人情報を以上の目的のために処理することができるよう、お客様が同意を取得すること、または取得済みであることを確認するものとします。IBM は、収集した個人情報へのアクセス、更新、修正または削除について、お客様の従業員および従契約者からの要求に従うものとします。

6.3.2 処理

すべての EU 加盟国、アイスランド、リヒテンシュタイン、ノルウェー、およびスイスで行われる取引については、以下の条件が適用されます。

お客様は、IBM が、以下の各国に対して、国域を越えて個人データ (かかる用語は、EU 指令 95/46/EC で定義されています。) を含むコンテンツを処理することに同意するものとします。オーストラリア、ベラルーシ、カナダ、フランス、ドイツ、インド、アイルランド、オランダ、英国およびアメリカ合衆国。お客様は、IBM が、「IBM SaaS」の提供のために必要であると合理的に判断した場合には、通知をもって、この国一覧を変更することに同意するものとします。

IBM の「米国 - EU 間のセーフハーバー・フレームワーク」および「米国 - スイス間のセーフハーバー・フレームワーク」が欧州経済地域における移転またはスイスの個人データの移転に適用されない場合、当事者またはその関連会社は、選択条項を除く EC Decision 2010/87/EU に従って、該当するそれぞれの役割において、未修正の EU 標準契約条項を別途締結することができます。これらの契約に起因するすべての紛争または責任については、両当事者は、関連会社間の紛争であっても、本契約の条件に基づき、紛争または責任が両当事者間で生じた場合と同様に取り扱うものとします。

6.4 Derived Benefit Locations

該当する場合、お客様が「IBM SaaS」に関する利益を享受しているとお客様が特定する場所の税金が適用されます。IBM は、お客様が IBM に追加情報を提供する場合を除き、「IBM SaaS」の注文時に主要な Benefit Location として記載した事業所住所に基づいて税金を適用します。お客様は、当該情報を最新状態に保ち、変更があった場合には IBM に通知する責任を負うものとします。

6.5 IBM SaaS コンテンツ

バックアップは、実稼働「インスタンス」については毎日実行され、非実稼働「インスタンス」については週単位で実行されます。IBM はお客様のデータのバックアップ・コピーを、実稼働「インスタンス」については最大 90 日間、非実稼働「インスタンス」については最大 7 日間保持します。バックアップは、災害復旧や、「IBM SaaS」を復旧するためのその他の取り組みのためだけに維持されるものであり、お客様が「IBM SaaS」から削除したデータを復旧させることを意図したものではありません。お客様は、個々のユーザーによるデータの削除を防止するために、「IBM SaaS」のセキュリティーを構成する責任を負い、当該データが削除されてしまった場合には、IBM が当該削除データを復旧できないこと、および IBM には復旧する義務がないことをお客様は了承し、同意するものとします。

「IBM SaaS」を解約または終了する前に、お客様は「IBM SaaS」について提供された報告機能またはエクスポート機能を使用してデータを抽出することができます。「カスタム・データ抽出」サービスは、別個の SOW を締結して利用することができます。「IBM SaaS」の終了から 30 日以内にお客様から要求を受け取った場合、IBM はお客様のコンテンツの電子コピーを破棄するか、またはネイティブ・アプリケーション形式でお客様に返却します。コンテンツの破棄に関する証明書またはコンテンツのコピーは、「テクニカル・サポート」にお問い合わせいただくことにより要求可能です。

6.6 ダウン時間

「IBM SaaS」のために計画された保守のためのダウン時間の期間は、IBM Software as a Service Support Handbookに記載されています。追加の「ダウン時間」は、「テクニカル・サポート」を通じてお客様に通知することにより、事前にスケジュールすることができます。この期間は、計画された保守のタイプに基づいて「IBM SaaS」を利用できたり、できなかったりします。この期間のダウン時間は、いずれのSLAクレジット計算にも含まれません。IBMは、緊急対応のために予定されていないダウン時間を設定する権利を留保します。

6.7 追加のサービス

6.7.1 アプリケーションのアップグレード

IBMは、相互に合意した時間に、実稼働または非実稼働の環境に対してソフトウェア・アップグレードをインストールして構成します。ただし、日程上の都合によります。

IBMは、「IBM SaaS」の一部として提供されたIBMプログラムのバージョンに関するサポートの終了の12か月前までに、通知を行います。IBMはお客様と協力して、サポート日の終了前に、「IBM SaaS」の各「インスタンス」を「IBMプログラム」のサポート対象バージョンに移行します。お客様は、かかる移行費用を負担します。IBMプログラムのサポート対象バージョンへの移行が、通知期間中に完了しない場合（IBMまたはIBMの従契約者のみに起因して遅延した場合を除きます。）、IBMはお客様への30日前の書面による通知により、本契約を終了できるものとします。

6.7.2 データベースのリフレッシュ

IBMは購入された各非稼働システムを対象に、四半期に1度、実稼働データベース・コンテンツをお客様の非実稼働環境に複製します。リフレッシュ・サービスは、スケジュールの可用性に応じて、相互に合意した時間に実施されます。

6.8 お客様が提供する認証

「IBM SaaS」は、お客様がお客様のインターネットURLを使用するよう明確に要求しない限り、IBMが提供するインターネットのURLを使用するよう構成されます。お客様が「IBM SaaS」に対してお客様のインターネットURLを使用することを選んだ場合、当該URLおよび要求されるすべての認証について、お客様はすべての責任を負い、その保守を行い、その更新の費用を負担します。お客様は、お客様の「IBM SaaS」のプロビジョニングが完了する前に、要求された認証およびセットアップ情報をIBMに提供する必要があります。

6.9 災害復旧

お客様が「IBM SaaS」の最新のサポート対象バージョンで実行している限り、IBMの管理の及ばない自然災害（火災、地震、洪水、その他）によって大規模なシステムの中断が発生した場合、災害復旧は、お客様の稼働データをお客様の非稼働「インスタンス」または「コネクション」の1つに対して復元することで達成されるものであり、また、お客様が各「関連するIBMプログラム」に対して少なくとも1つの「非稼働インスタンス」を購入している場合にのみ適用されます。災害復旧は、稼働「インスタンス」および「コネクション」に対してのみ適用されます。IBMは、稼働「インスタンス」および「コネクション」について、「目標復旧時間（RTO）」を72時間、「目標復旧時点（RPO）」を24時間として、お客様の「IBM SaaS」を復元するために、商業的に合理的な努力を払って「災害復旧」を実施します。

6.10 累積的使用許諾の要件

お客様は、「インスタンス」の使用許諾のほか、IBM Emptoris Spend Analysis on Cloud および IBM Emptoris Spend Analysis Premium on Cloud の「IBM SaaS」ユーザーの数をカバーするのに十分な「許可ユーザー」の使用許諾を取得する必要があります。

6.11 使用許諾が不要な場合

「管理ユーザー」は、「IBM SaaS」オファリングに含まれています。お客様は、「IBM SaaS」の「管理ユーザー」については、「許可ユーザー」の使用許諾を取得する必要はありません。

「管理ユーザー」には、支出の役割またはグループに対してアプリケーションおよびデータの許可を設定し、アプリケーション・プロパティを変更し、ディメンション、指標および属性を構成し、ならびに、「戦略的サプライ管理プラットフォーム」内外のユーザー、組織、データ・ソース、グループ、役割、ワークフロー、カテゴリおよびマスター・サプライヤー・レコードを構成することが許可されています。

別紙 A

1. IBM Emptoris Spend Analysis Premium On Cloud

この「IBM SaaS」オフアリングは、以下の機能をサポートしています。

- 「ディメンション・エクスプローラー」 – マルチディメンションで構成可能なビューで、ユーザーは支出プロファイルの履歴を閲覧することができます。さらにユーザーは、フィルタリングを適用し、ブックマークを作成し、かつ、トランザクション・レベルまで詳細化して支出を可視化できます。ユーザーはまた、オフライン分析用にディメンション・データを閲覧およびエクスポートすることもできます。
- 「トップ・レポート」 – ユーザーが、アプリケーション内に作成したレポートに、トップ・レポートとしてのタグを付けることを可能にします。ブックマークおよびダッシュボードにも他のレポートと同様に、「トップ・レポート」のタグを付けることができます。
- 「管理」 – アドミニストレーターが、ユーザーの役割、関連する許可、データの可視化およびプロパティを管理することを可能にします。さらにアドミニストレーターは、アプリケーションの使用状況を、ユーザーの詳細な使用状況レポートによりトラッキングすることもできます。
- 「ダッシュボード」 – ユーザーは、アプリケーション内に組み込まれた様々なレポート作成コンポーネントを使用して、複数のパネルで構成されるダッシュボードを閲覧、構築および構成することができます。さらにユーザーはダッシュボードのコンテンツを共有およびエクスポートすることもできます。
- 「作表」 – ユーザーが、最大 3 行および 3 列のディメンションで構成される作表レポートを作成、閲覧およびエクスポートすることを可能にします。ユーザーはまた、最大 5 つのディメンションから成る入れ子構造のピボット・テーブルを作成することもできます。ユーザーは、「作表」レポートを Excel ファイルにエクスポートすることも、IBM Emptoris Spend Analysis On Cloud オフアリングのその他のユーザーと共有することもできます。
- 「分析」 – ユーザーが、基本的なクエリー・ベースのレポートを作成することを可能にします。ユーザーは、このレポートを Excel ファイルにエクスポートすることも、Emptoris Spend Analysis On Cloud オフアリングのその他のユーザーと共有することもできます。
- 「フィードバック」 – ディメンション階層または支出割り振りへの変更を示すことにより、ユーザーがフィードバックをキャプチャーして支出の分類を更新できるようにします。

2. IBM Emptoris Spend Analysis On Cloud

この「IBM SaaS」オフアリングは、以下の機能をサポートしています。

- 「ディメンション・エクスプローラー」 – マルチディメンションで構成可能なビューで、ユーザーは支出プロファイルの履歴を閲覧することができます。さらにユーザーは、フィルタリングを適用し、ブックマークを作成し、かつ、トランザクション・レベルまで詳細化して支出を可視化できます。ユーザーはまた、オフライン分析用にディメンション・データを閲覧およびエクスポートすることもできます。
- 「トップ・レポート」 – ユーザーが、アプリケーション内に作成したレポートに、トップ・レポートとしてのタグを付けることを可能にします。ブックマークおよびダッシュボードにも他のレポートと同様に、「トップ・レポート」のタグを付けることができます。
- 「管理」 – アドミニストレーターが、ユーザーの役割、関連する許可、データの可視化およびプロパティを管理することを可能にします。さらにアドミニストレーターは、アプリケーションの使用状況を、ユーザーの詳細な使用状況レポートによりトラッキングすることもできます。

3. IBM Emptoris Spend Analysis On Cloud Advanced Add-on

「IBM SaaS」 オプションは、以下の機能を IBM Spend Analysis on Cloud オファリングに追加します。

- 「ダッシュボード」 – ユーザーは、アプリケーション内に組み込まれた様々なレポート作成コンポーネントを使用して、複数のパネルで構成されるダッシュボードを閲覧、構築および構成することができます。さらにユーザーはダッシュボードのコンテンツを共有およびエクスポートすることもできます。
- 「作表」 – ユーザーが、最大 3 行および 3 列のディメンションで構成される作表レポートを作成、閲覧およびエクスポートすることを可能にします。ユーザーはまた、最大 5 つのディメンションから成る入れ子構造のピボット・テーブルを作成することもできます。ユーザーは、「作表」レポートを Excel ファイルにエクスポートすることも、IBM Emptoris Spend Analysis On Cloud オファリングのその他のユーザーと共有することもできます。
- 「分析」 – ユーザーが、基本的なクエリー・ベースのレポートを作成することを可能にします。ユーザーは、このレポートを Excel ファイルにエクスポートすることも、Emptoris Spend Analysis On Cloud オファリングのその他のユーザーと共有することもできます。
- 「フィードバック」 – ディメンション階層または支出割り振りへの変更を示すことにより、ユーザーがフィードバックをキャプチャーして支出の分類を更新できるようにします。

4. IBM Emptoris Spend Analysis Read Only

お客様には、リポジトリーへのアクセスおよびその検索、レポートの閲覧、承認者またはルーターとしてのフィードバック・ワークフローへの参加 (月ごとに 12 回のログインに限定されます) が許可されます。

5. IBM Emptoris Spend Analysis Non-Production Environment

「IBM SaaS」は、お客様の非実稼働活動の一部として使用することができます。非実稼働活動には、テスト、性能調整、故障診断、ベンチマーク、ステージング、品質保証活動および公開されたアプリケーション・プログラミング・インターフェースを使用する社内使用の「IBM SaaS」に対する追加もしくは拡張の開発が含まれますが、これらに限られません。

別紙 B

IBM は、「IBM SaaS」に関して、以下の可用性サービス・レベル・アグリーメント (以下、「SLA」といいます。) を提供し、お客様の「証書 (PoE)」または「取引文書」で指定される場合には、この SLA が適用されます。開始時またはお客様の「サブスクリプション期間」の更新時における最新版の本 SLA の条件が、適用されます。お客様は、SLA が保証とならないことを了承するものとします。

1. 定義

- a. 「可用性クレジット」 - IBM が検証した「請求」に対して提供する救済措置をいいます。「可用性クレジット」は、返金または「IBM SaaS」のサブスクリプション料金の将来の請求額から割り引く形で適用されます。
- b. 「請求」 - お客様が IBM に対して提出する、「契約月」中に SLA が満たされていない旨の主張をいいます。
- c. 「契約月」 - その月の初日の午前 12 時 (米国東部標準時) から当該月の末日の午後 11 時 59 分 (米国東部標準時) までを基準とする「IBM SaaS」期間における各 1 か月をいいます。
- d. 「ダウン時間」 - 「IBM SaaS」を処理する実稼働システムが停止し、許諾を得ているお客様のユーザーが、あらゆる点で「IBM SaaS」を利用できなくなる期間をいいます。「ダウン時間」には、「IBM SaaS」が以下のいずれかに起因して利用できなくなった場合の期間は含まれません。
 - 保守のための定期的な停止または発表された停止。
 - IBM の管理の及ばない事象または原因 (例: 自然災害、インターネット障害、緊急保守等)。
 - お客様または第三者のアプリケーション、機器、またはデータの不具合。
 - 「IBM SaaS」にアクセスするための所要のシステム構成およびサポートされているプラットフォームをお客様が満たさない場合。
 - IBM が、お客様またはお客様に代わる第三者が IBM に提供する設計、仕様、または指示に従った場合。
- e. 「事象」 - SLA が満たされない原因となる状況または一連の状況をいいます。

2. 可用性クレジット

- a. 「請求」を提出するためには、お客様は、「事象」ごとに、かかる「事象」がお客様による「IBM SaaS」の利用に影響を与えたことをお客様が最初に知り得たときから 24 時間以内に、IBM テクニカル・サポート・ヘルプデスクに対して重要度 1 のサポート・チケットを記録しなければなりません。お客様は「事象」に関するすべての必要な情報を提供し、「事象」の分析および解決のために IBM を合理的に支援しなければなりません。
- b. お客様は、「可用性クレジット」に対する「請求」を、「請求」が生じた「契約月」の末日から 3 営業日以内に提出しなければなりません。
- c. 「可用性クレジット」は、「ダウン時間」が最初に影響を与えたことがお客様により報告された時点から測定されるダウン時間に基づいて決定されます。IBM は、有効な各「請求」に対して、適用可能なもっとも高い「可用性クレジット」を、下表のとおり、各「契約月」において達成したサービス・レベルに基づいて適用します。同「契約月」中における同「事象」に対する「可用性クレジット」は、重複して適用されません。
- d. 「一括サービス」(個別の「IBM SaaS」を組み合わせるパッケージとし、単一料金で販売しているもの) に対する「可用性クレジット」は、「一括サービス」に対する合計の単一月額料金に基づいて計算されるものとし、各個別「IBM SaaS」に対する月額サブスクリプション料金には基づかないものとします。お客様は、すべての「契約月」において、一括で、1 つの個別の「IBM SaaS」に関する「請求」のみ提出することができます。また、IBM は、すべての「契約月」において、一括で、2 つ以上の「IBM SaaS」に対する「可用性クレジット」に関する責任を負いません。

- e. お客様が、IBM の認定リセラーからの再販売取引によって「IBM SaaS」を取得した場合で、IBM が「IBM SaaS」および SLA のコミットメントを履行する一義的な責任を負う場合、「可用性クレジット」は、「請求」の対象となる「契約月」において有効な「IBM SaaS」に対するその当時の「レベル別推奨数量割引料金」(以下、「RSVP」といいます。)に基づいて計算され、そこから、50% 割引した額となります。
- f. すべての「契約月」に支払われた「可用性クレジット」の合計額は、いかなる状況においても、お客様が「IBM SaaS」に対して IBM に支払った年額料金の 1/12 の 10% を超えないものとします。

3. サービス・レベル

「契約月」における「IBM SaaS」の可用性は次のとおりです。

「契約月」における可用性	可用性クレジット (「請求」の対象である「契約月」における月額サブスクリプション料金のパーセント)
<99.0%	2%
<97.0%	5%
< 95.0%	10%

「可用性」は、以下のとおり算出されます。(a)「契約月」における分単位の総時間数から、(b)「契約月」における「ダウン時間」の分単位の総時間数を差し引き、その値を (c)「契約月」における分単位の総時間数で除することにより算出され、結果はパーセントで表します。

例:「契約月」中の「ダウン時間」合計 500 分

30 日の「契約月」における合計 43,200 分 - 予定外の「ダウン時間」500 分 = 42,700 分 <hr/> 合計 43,200 分	= 「契約月」における 98.8% の「達成したサービス・レベル」につき 2% の「可用性クレジット」
--	---

4. 除外事項

本 SLA は、IBM のお客様に限り、適用されます。本 SLA は、以下の場合には適用されません。

- ベータ版および評価版のサービス。
- 非実稼働環境 (テスト、災害復旧、品質保証、または開発用環境を含みますが、これらに限られません)。
- 「IBM SaaS」におけるお客様のユーザー、ゲスト、参加者、および許可された招待者による「請求」。